

西根

ムラサキの根を使った南部紫根染を体験



ムラサキの根から取った染色液にハンカチをつける園児

盛岡農高の生物工学科ムラサキ保護研究班の生徒11人は6月5日、東大更児童館で絶滅危惧種ムラサキと、南部紫根染の普及活動を行いました。生徒たちは紙芝居でムラサキや紫根染を紹介。生徒の指導の下、園児16人と父母は、紫根染に挑戦しました。白いハンカチを輪ゴムで縛り、ムラサキの根から抽出した液体に約30分。取り出したハンカチを水で洗うと、紫色の模様が次々と浮かび上がりました。

不審者対策に防犯プレートとベルを贈る

市と八幡平幹部交番、防犯関係団体は、市内の小学生全員に配布する防犯プレートを作製し、6月1日に平舘小学校で贈呈式を行いました。このプレートは、不審者が小学生に接近することを防ぐと作製。表には「110番します！」と警告を表示し、目立つようにはがきサイズの大きさにしました。

市内でも、不審者の声掛け事案が報告されているため、子どもたちの安全確保に一役買いそうです。また、西根町防犯協会寺田支部は6月15日、寺田小学校に防犯ベル100個を贈りました。同支部は昨年度も贈呈し、今回と合わせて150個。寺田小全児童に配布できるようにになりました。



市内の全児童1613人に配布された「子どもを守る防犯プレート」



寺田小学校には、西根町防犯協会寺田支部から防犯ベル100個が贈られました

県内のロケ地で撮影した「待合室」を上映

一戸町の小繋駅を舞台にした映画「待合室」の上映会(市アマチュア無線連絡協議会主催)は6月18日、西根地区市民センターで行われました。この映画は、同駅に置かれた「命のノート」を通じて人々と心の交流をする立花和子さんの活動を再現。旅人がノートに書いた悩みを真剣に受け止め、励ましの返事を記す立花さんの優しさに触れ、上映会に訪れた約600人は、心温まる一日を過ごしました。



一戸町の小繋駅を舞台にした映画「待合室」の一コマ

八幡平市

分団の名誉をかけ、消防訓練大会を開催

正確で迅速な消火技術と的確な指揮者の号令や規律を競う市消防団消防訓練大会は、6月4、18の両日、市内3地区でそれぞれ行われました。西根地区では4日、西根地区体育館前駐車場で3部門を開催し、ポンプ自動車8台、小型ポンプ5台、規律訓練13隊が出場。審査の結果、自動車ポンプは6分団、小型ポンプは5分団、規律訓練は12分団が優勝しました。

松尾地区では18日、松尾総



正確で迅速な消防技術を競ったポンプ操法(西根地区消防団)



規律訓練で、指揮者の号令に従い、きびきびとした動きを披露する安代地区消防団

合運動公園ヘリポートで2部門を開催し、ポンプ自動車9台、小型ポンプ4台が出場。審査の結果、自動車ポンプは26分団、小型ポンプは14分団が優勝しました。安代地区では18日、安代小学校と安代総合支所前で3部門を開催し、ポンプ自動車9台、小型ポンプ10台、規律訓練10隊が出場。審査の結果、自動車ポンプと小型ポンプは33分団、規律訓練は30分団が優勝しました。

おらほの特産品・ホウレンソウは日本一



生産状況を説明する田村信悦さん(写真右から2人目)

市の特産品・ホウレンソウの生産者を激励しようと、市と新岩手農協などは6月9日、生産農家を訪問しました。激励を受けたのは、田村信悦さん(大更)、高橋秀美さん(平笠)、佐々木和男さん(松尾)の3人。田村正彦市長や千葉英寛盛岡地方振興局長などが訪れ、激励文を手渡ししました。西根地区のホウレンソウは昭和63年に天皇杯を受賞するなど日本一を誇る産地。一層の産地強化が期待されます。

隣の田や畑に農薬が飛散していませんか

農薬の適正な使用方法に理解を深めてもらおうと八幡平農業改良普及センターは6月2日、市内の産直施設などでミニキャラバンを行いました。基準が設定されていない農薬が含まれる食品の流通を禁止するポジティブリスト制が5月29日に施行されたことに伴い実施。農薬使用者が周辺の田畑に飛散させないことが求められます。同普及センターでは、農薬適正使用の相談を受け付けています。



安心・安全な食品づくりが求められています

安代

清流を守ろう。ミズナラ200本を植樹



田山小の6年生11人もミズナラの植樹に挑戦

日本海に注ぐ米代川の清流を守ろうと、岩手、秋田両県の森林管理署と漁協は6月8日、兄川の国有林で植樹祭を開きました。

植樹祭は、平成13年に田山地区を襲った集中豪雨で、土砂が川に流れ込み、アユが被害を受けたことをきっかけに14年から開催。森、川、海の生態系を守り育てることが目的です。当日は田山小の6年生など約80人が参加。ミズナラ200本を丁寧に植えました。



安代地区の商店街を花でいっぱいにしようとバスケット作りに取り組む参加者

安比高原の国有林を自然体験学習の場に

安比高原ブナの駅周辺の国有林約180haを、野外学習や遊びの場として活用しようと、市と岩手北部森林管理署は6月1日、「あつび高原悠々の森」協定を結びました。

悠々の森は、市と森林管理署が協定を結ぶことで、国有林を学習の場として活用できる制度。県内では9番目の調印になります。調印式に参加した安代小の5年生41人は、自然観察会を行い、体いっばいに自然を感じていました。



国有林を学習の場に活用しようと協定が交わされました

花いっぱいバスケットが商店街を彩る

安代地区商店街を美しい花で飾り、気持ちよく買い物客を迎えようと市商工会安代支所は6月12日、吹田の大森ハウスでハンギングバスケット講習会を開きました。

この講習会は、同支所が掲げる「花で街づくり事業」の一環。商店街を美しく彩り、地域の活性化を図ることが目的です。

講習会には、安代地区の会員や地域内の女性約40人が参加。講師の斎藤富子さん（荒屋新町）指導の下、ベゴニアやロベリアなど14種類の草花を組み合わせて、つり下げ型80個、壁掛け型50個を仕上げました。バスケットは6月中旬から国道282号沿いの商店や民家に飾られ、10月ごろまで季節ごとの花々が訪れた人の目を楽ませます。

同支所ではこのほか、毎月4のつく日に市を開く「四日市事業」などを展開し、中心市街地活性化事業に取り組んでいます。

松尾

学習院八幡平松尾校舎が35年の歴史に幕



学習院八幡平松尾校舎前で思い出を振り返る管理人の斎藤重夫さん（写真右）、淑子さん夫妻

昭和46年10月16日に旧松尾村から無償譲渡され、学習院の校外教育施設として利用されてきた学習院八幡平松尾校舎の閉校式が6月18日、同校舎の運営にこれまで協力した地域住民など、約120人が参加して行われました。

式典に先立ち、学習院の教育に多大な貢献のあった同校舎への感謝を込めた記念碑の除幕が行われました。

式典では、波多野敬雄学習院長が「これまで運営できたのは地域の皆さんのおかげです」とあいさつし、田村正彦市長は「閉校は非常に残念。今後



記念碑の除幕を行った（写真左から）島津名誉院長、波多野学習院長、田村市長、佐々木旧松尾村長

も八幡平に学習院の校舎があったことを誇りに思いたい」と閉校を惜しみました。また、学習院から市に無償譲渡される土地の目録が市長に手渡され、これまで同校舎の運営に深いかかわりのあった旧松尾村長、旧松尾村婦人団体連絡協議会、翌檜山岳会にそれぞれ感謝状が贈られました。同校舎は8月6日まで運営し、その後は解体され、跡地には市がメモリアル公園を整備する計画。9月には岩手山登山行事で学習院中等科が八幡平市を訪れる予定になっています。



チェックポイントの課題ゲームに奮戦する参加者

新緑の八幡平をウォークラリーで遊ぼう

八幡平市レクリエーション協会が主催する八幡平ウォークラリー2006は6月4日、八幡平温泉郷集会所前を発着点に行われました。当日は好天に恵まれ、16チーム、41人が参加しました。

ウォークラリーは、コマ図と呼ばれるコース図を見ながら道順をたどり、チェックポイントで課題をクリアしながら進むゲーム。参加者は八幡平の自然を満喫しながら、楽しく課題に挑戦しました。

秋桜の小さな種から思いやりの花が咲く

6月12日、高橋良二さん（柏台）が、岩手銀行平館支店で「小さな親切」運動岩手県本部（代表：永野勝美岩手銀行頭取）から、小さな親切実行章を受けました。

高橋さんは、平成9年から旧松尾村内の保育所卒園児に、他人を思いやる優しい心を持つてほしいとの願いを込めてコスモスの種を贈り続け、今年で9回目。「今後も地域の子どものために頑張りたい」と決意を新たにしました。



小さな親切実行章を受ける高橋さん（写真右）